

なめがた

2025年11月号

行方市立図書館

〒311-3511

茨城県行方市玉造乙1175

0299-55-1495 (TEL)

0299-55-3452 (FAX)

としょかんだより

肌に触れる風もだんだんと冷たくなり、晩秋の気配が感じられるようになりました。

昼と夜の寒暖の差もだんだんと大きくなってきましたね。

秋の長い夜は、暖かくして図書館の本をおともに過ごしてください♪

November 11月 としょかんカレンダー 12月 December

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3 文化の日	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 勤労感謝の日	24 振替休日	25	26	27	28	29
30						

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

開館時間：午前9：00～午後5：00

平日・土日祝日ともに同じ時間になります。

休館日（月曜日が祝日の場合は開館します）

11月のイベント情報

11月11日（火）子育て広場 絵本の読み聞かせ

場所 麻生公民館1階和室 午前10：30～

11月12日（水）子育て広場 絵本の読み聞かせ

場所 玉造公民館2階和室 午前10：30～

11月12日（水）おいで楽しい絵本の時間（幼児向け）

場所 行方市立図書館2階幼児室 午前10：30～

11月21日（金）子育て広場 絵本の読み聞かせ

場所 行方市保健センター 午前10：30～



読書週間

10月27日～11月9日



「読書週間」マークの由来

その昔、ギリシャ神話の世界で「ふくろう」は、学問・芸芸・知恵を司る美貌の女神アテナの使者であり、また、代表的なポリスで文化の中心地アテナイ（アテネ）の聖鳥でもありました。古代のギリシャ人たちは、賢そうな丸い目でまじ顔の「ふくろう」を知恵の象徴として大切にしたいと、森の奥深く、静かに瞑想にふけるこの「ふくろう」の姿こそ、読書週間のシンボルマークとしてもっともふさわしいものと考え、読書週では長い間使用してきました。

市立図書館、麻生・北浦各公民館図書室では、10月25日～11月14日まで、読書週間に合わせたイベントとして、『読書マラソン』を開催しています。

市内の小学生を対象に、20冊本を借りて読んでいただくと、500円分の図書カードをプレゼントしています。たくさんの小学生の皆さんの参加をお待ちしています。



新刊・おすすめ本



『パンどろぼうと
スイーツおうじ』
柴田 ケイコ/作

スイーツおうじのわがままおうじは、スイーツがだいすきで、スイーツいがいたべません。しんぱいしたおうひさまは、「こうなったら、ちまたでひょうばんのパンどろぼうさんをよんで、おいしいパンをつくってもらおうかしら」と、パンどろぼうをおしろにまねきます。でもスイーツおうじは、「パンなんてたべないもんね」とにげだし…。



11月15日

「七五三（しちごさん）」は、子どもの成長をいわう行事です。子どもが無事に成長していることを神さまに感謝して、これからもすこやかに成長できるようにおいのりをします。

なぜ「七五三」なの？

「七五三」は、もともと公家や武家のあいだで行われていた「かみおき」「はかまぎ」「おびとき」の3つの行事にゆらいします。むかしは子どもが病気などでなくなることが多く、7歳をひとつの区切りにして、無事に成長したことをいわったのです。

☼「かみおき」は3歳で、それまでそっていた髪の毛のばしはじめる儀式です。

☼「はかまぎ」は5歳で、男の子がはじめて袴をはく儀式です

☼「おびとき」は7歳で、女の子がはじめて大人の帯をしめる儀式です。



今月の映画化書籍



病院の売店で再会した、元男子の青砥と元女子の須藤。50年生きてきた男と女には、老いた家族や過去もあり…。心のすき間を埋めるような感情のうねりを、求めあう熱情を、生きる哀しみをしみじみと描く、大人の恋愛小説。

『平場の月』

朝倉 かすみ/著

出演

堺雅人/井川遥 ほか

2025年11月14日(金)～

麻生・北浦各公民館図書室のお問合せ

行方市麻生公民館図書室

〒311-3832

行方市麻生1221

0299-72-1573

行方市北浦公民館図書室

〒311-1704

行方市山田2175

0291-35-3777